

B-174 インドの民族服(パンジャブ地方)

薙英女 短大 ○松本敏子 橋本康子 石塚道子

目的 インドの民族服はサリーに代表されているように考えられているが、インド国内には意外に多様な民族服が存在している。その内の一つパンジャブ地方の衣服について報告を行い、印度北都を中心として東西の衣服の交流関係を追求する。

方法 ノタフタ年々4月から5月にかけて、現地調査を行い、デリー博物館資料室、現地で入手したものを写真の上、復元を試み、その構成技術を研究した。聞き取り調査は英語ロシヤ語を主とし、文献はデリー大学、現地購入のものを採用した。

結果 パンジャブ地方の民族服は、西方パキスタン、更にイラン、トルコと密接な関係にあり、東方ではネパールの民族服に強い影響を与えていることが判明した。各地方で独自の飛躍を遂げているように見える衣服も、底流には、様々な国や民族の文化の交流があることを確認することが出来た。